

2026年3月期 通期決算概要

- 前年度比で増収増益。営業利益は建築用ガラス事業の改善により増加。
営業利益は通期業績予想を下回るが、一過性の税効果もあって純利益は上回る
- 2027年3月期は下半期から欧州市場が改善すると見込み、再度営業利益360億円の水準を目指す。
一方で、エネルギーコストの上昇等、厳しい事業環境が継続
- 欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復したが、2027年3月期業績予想も中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」の財務目標を下回り、達成は厳しい状況。
新生NSGグループに向けた抜本的施策の下でも4つの「D」に対するコミットメントは不変であり、改善を目指す

1. 2026年3月期 通期決算

- 第4四半期(1-3月期)の売上高は2,389億円(前年同期比+285億円、+13.5%)、営業利益は103億円(同+46億円、+81.3%)と改善
- 通期の売上高は8,795億円(前年度比+391億円、+4.5%)、営業利益は288億円(同+123億円、+74.7%)で、増収増益。売上高は為替影響もあり欧米の自動車用ガラス事業および建築用ガラス事業で前年度から改善し、通期業績予想を上回る。営業利益は通期業績予想を下回るが、主に欧州の建築用ガラス事業で前年度から改善し増加
- 個別開示項目では、第4四半期に北米の自動車用ガラス事業でのれんの減損損失34億円を計上し純額で55億円の費用(前年度は52億円の費用)となり、税引前利益は4億円(前年度は85億円の損失)
- 法人所得税は英国において88億円の一過性の繰延税金資産計上の結果、51億円の費用のマイナス(前年度は49億円の費用)となり、これにより当期利益は55億円(前年度比+190億円)、純利益*は44億円(同+183億円)
- フリー・キャッシュ・フローは、運転資本の増加により11億円(同△89億円)。
自己資本比率は13.5%(前期末比+3.1pt)と改善。有利子負債は5,483億円(同+235億円)

<損益計算書および財務指標>

(億円)	1-3月期(3か月)			通期			2026年3月期 通期業績予想
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	
売上高	2,104	2,389	285	8,404	8,795	391	8,500
営業利益	57	103	46	165	288	123	310
営業利益率	2.7%	4.3%	+1.6pt	2.0%	3.3%	+1.3pt	3.6%
個別開示項目(純額)	△27	△48	△21	△52	△55	△3	10
個別開示項目後営業利益	30	55	25	112	233	121	320
金融費用(純額)	△71	△73	△2	△253	△283	△30	△270
持分法による投資利益	18	13	△5	55	57	2	60
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	-	△0	△0	-	△4	△4	-
税引前利益(△損失)	△23	△4	19	△85	4	89	110
当期利益(△損失)	△42	96	137	△135	55	190	40
純利益(△損失)*	△38	96	133	△138	44	183	20
EBITDA	177	248	71	658	830	172	
フリー・キャッシュ・フロー	564	333	△231	100	11	△89	

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

(億円)	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
総資産	10,329	11,175	846
親会社の所有者に帰属する持分	1,081	1,512	432
自己資本比率	10.5%	13.5%	+3.1pt
有利子負債	5,248	5,483	235

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	売上高および営業利益は欧州において販売価格が改善したため、増加。前年度に実施した生産停止に伴うコスト削減も引き続き寄与。太陽電池パネル用ガラスの需要は、アジアでは米国関税政策等を踏まえた取引先の生産調整の影響により減少だが、改善傾向。米国では堅調な需要が継続
自動車用ガラス事業	売上高は増収だが営業利益は減益。販売数量は減少したものの、北米の補修用ガラス事業を中心に販売価格が改善。欧州では付加価値製品の拡大に伴い販売構成が改善。日本では新車用ガラス事業の販売数量が伸び悩む。北米の新車用ガラス事業の一時的な生産効率低下は継続。欧州での生産体制の見直しは計画通り進捗
高機能ガラス事業	当初計画通り販売構成が下半期から改善し、営業利益は増益

(億円)	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比	
	1-3月期	通期	1-3月期	通期	1-3月期	通期
売上高						
建築用ガラス事業	889	3,630	1,023	3,750	134	120
自動車用ガラス事業	1,105	4,294	1,233	4,572	128	278
高機能ガラス事業	104	466	130	460	26	△ 6
その他	6	13	3	12	△ 3	△ 1
売上高合計	2,104	8,404	2,389	8,795	285	391
営業利益						
建築用ガラス事業	49	136	111	300	62	165
自動車用ガラス事業	51	77	15	50	△ 36	△ 27
高機能ガラス事業	19	76	39	86	20	11
その他	△ 62	△ 123	△ 62	△ 149	△ 0	△ 25
営業利益合計	57	165	103	288	46	123

2. 2027年3月期 業績予想

- 下半期から欧州市場が改善すると見込み、再度営業利益 360 億円の水準を目指す。
一方で、エネルギーコストの上昇等、厳しい事業環境が継続
- 主要通貨に対して前年度に比較し円高を見込む
- 地政学リスクもありエネルギー価格や原材料価格は上昇し、インフレによる人件費等その他コスト増加も継続するが、価格転嫁により吸収を図る

<業績予想>

(億円)	2026年3月期 実績		2027年3月期 予想		差異	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,208	8,795	4,400	8,800	192	5
営業利益	120	288	165	360	45	72
個別開示項目(純額)	△ 6	△ 55	△ 15	△ 15	△ 9	40
個別開示項目後営業利益	114	233	150	345	36	112
金融費用(純額)	△ 135	△ 283	△ 145	△ 295	△ 10	△ 12
持分法による投資利益**	25	53	30	55	5	2
税引前利益(△損失)	4	4	35	105	31	101
当期利益(△損失)	△ 34	55	5	40	39	△ 15
純利益(△損失)*	△ 42	44	0	30	42	△ 14

注) 本業績予想は現状における前提に基づくものです。
後述の通り、当社は新生 NSG グループに向けた抜本的な施策の実施を
開示しており、その成立の場合には状況により修正される可能性があります。

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)
**持分法投資に関するその他の利益(△損失)を含む

3. 新生 NSG グループに向けて

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況

欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復したが、2027年3月期業績予想も目標を下回り、達成は厳しい状況。新生NSGグループに向けた抜本的施策の下で改善を目指す

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 業績予想
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		288億円：欧州建築用ガラス事業の改善により前年度比で増益	360億円
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	3.3%：前年度比で1.3pt改善	4.1%
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		11億円：運転資本の増加により前年度比で減少	
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,483億円：前期末から235億円増加	
	自己資本比率	15%		13.5%：前期末から3.1pt改善	

「2030 Vision : Shift the Phase」4つの「D」の進捗状況

新生NSGグループに向けた抜本的施策の下でも中期経営計画および4つの「D」に対するコミットメントは不変。引き続き優先順位を明確にしたうえで施策の推進を継続

1. Business Development

- ・ 省エネガラス向けコーティング設備投資が日本およびポーランドで順調に進捗（2025年6月16日、9月2日）
- ・ 北米の自動車用ガラス事業でフロントガラスおよびルーフガラス用高精度合わせガラスの生産が拡大
⇒需要が高まっている高付加価値製品への対応を加速

2. Decarbonization

- ・ 米国・オタワ事業所に太陽光発電システムを新設（2025年5月30日）
- ・ 英国・グリーンゲート事業所に移設した型板ガラス製造ラインが稼働、窯を2ラインで共用（2025年7月11日）
- ・ 日本において使用済太陽パネルのカバーガラスの水平リサイクルに成功（2026年4月3日）
- ・ CDP評価（「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」、気候変動「Aリスト」）（2025年7月23日、12月16日）

3. Digital Transformation

- ・ 映像解析AIを活用した職場安全管理システムの導入がグローバル全体で進行（2025年10月16日）

4. Diverse Talent

- ・ 従業員意識調査「Your Voice」の継続実施

新生NSGグループに向けた抜本的施策の概要



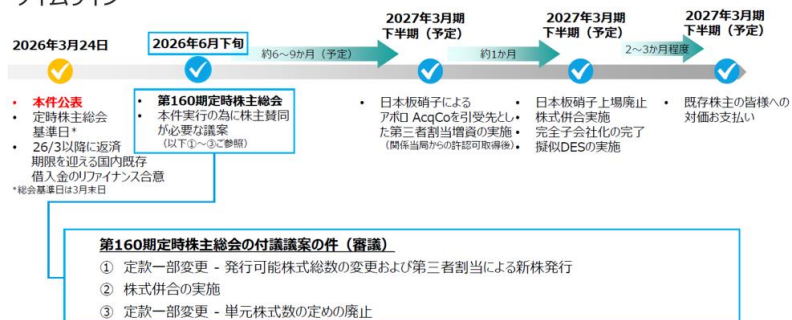
2026年3月24日に新生NSGグループに向けた抜本的施策を開示

1. 概要

定時株主総会において本件に必要な株主決議、および関係当局の許認可承認取得を経て施策を実施

- (1) アポロ・ファンドによる第三者割当増資（TPA）を通じて、総額1,650億円の出資を受領
- (2) 株式併合を通じて、既存株主から1株当たり500円（株式併合交付金額）で株式を買取り、非公開化
- (3) 主要金融機関による総額1,400億円の債務の株式化（擬似DES）の実施

2. タイムライン



<お問い合わせ> （報道関係等）広報部（お問合せページ） <https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us>